



広島西ロータリークラブ会報

No. 2039

THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA WEST

例会日・木曜日 12:30~13:30
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島
会長 井原 俊彦
幹事 香川 基吉

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78
リーガロイヤルホテル広島13F
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870
E-mail:hwrc@godorc.gr.jp
広島西ロータリー <http://www.hwrc.jp/>

RIテーマ Reach Within to Embrace Humanity
「こころの中を見つめよう
博愛を広げるために」

本年度会長テーマ
「ユーモアでロータリーに
もっともっと笑顔を」

「会員増強及び拡大月間」「平和月間」

2011年8月11日 第2015回例会

◆ 会長時間 ◆

井原会長



ロータリーと多様性

皆さんこんにちは。今日はロータリーの多様性についてしゃべらせて頂きます。

RIは中核となる価値観の一つとして多様性をあげてい

ます。紛争が続いているあのパレスチナ自治区の事実上の首都ラマラで、昨年ラマラロータリークラブが設立されたというニュース（ロータリーの友2010年12月号 P17~19）がありました。その立役者の一人が米山学友で環境汚染対策が専門のジェフリー・ベアさん（ロータリーの友2011年2月号 P24~25）だったというのに少し驚きました。

すぐ近くで殺しあいのある場所で、ユダヤ教徒、イスラム教徒、キリスト教徒、パレスチナ人、イスラエル人が、お互いを受け入れて紛争を解決しようとする足がかりとしてのロータリークラブが発足した事は大変意義深いものだと思います。まずは、安全な遊び場を作るのが目標だそうです。ところが3週間前ノルウェイのオスロでテロが起りましたね。ヨーロッパへ、イスラム教徒が流入することを認める多文化主義を攻撃する狂信的な若者の犯行でした。自分の主義主張だけが正しい

という激しい思い込み、それが独善的な行動や言葉となって表われ、人間どうし、民族どうし、国どうしの争いを生みます。ロータリアンどうしでもありえることです。その独善性に風穴をあけるのが想像力とユーモアです。“わたしたちが正しい場所に花は咲かない”という本の作者アモス・オツ氏は言います。最も危険なのは自分を笑えない人間の心です。皆さん笑いあいましょう。

ブッタが眼の見えない人達に象の体の一部を触らせて意見を言わせた有名な話があります。例えば身近な例では役人は仕事をサボる、外科医はアバウトだ、女はこれだからロータリーに向かない、女が入ってくるのならわしは退会する、ロータリーいうたらダンナ衆が昼食を食べに行く所よ、等々、我々は誰でも自分の狭い経験や知識から独善的に物を言いがちです。

我々は新聞やテレビに影響されて狭い見におちいりやすく、簡単に狂信的になります。私は小学生の頃、中国新聞を読んでどうしてカープは優勝しないのかといつも不思議に思っていたものです。今でも新聞は一紙だけを読んでいるとダマされる事があります。新聞は“まゆつば”で読もう。こういう言い方は狂信主義的かも知れません。

ロータリーが始まった米国、ロータリーの中心をなすアメリカ文化、その中心ニューヨーク州等

6つの州でゲイ同士の結婚が認められましたね。
20~30年したら日本にも上陸するかも知れません。
人類の将来にとって由々しき事です。私は
同性愛者が入会してきたらロータリーを辞める。
あっ、これも独善的ですね。

ありがとうございました。

物故会員に黙祷

やまもと ただよし

広島RC、山本 忠義 会員が8月4日にご逝去されましたので謹んでお知らせいたします。

(享年73歳)

ガバナーより公式訪問礼状を披露



会務報告

香川(基)幹事

※地区大会のご案内ーBOXに案内を配布しておりますので、多数のご参加をお願いいたします。
※合同事務局が8月15日~8月16日の期間、お盆休みとなります。

※例会終了後、4階「松の間」において8月定例理事会を開催いたしますので、理事会メンバーは出席願います。

委員会報告

出席報告 鮫島副委員長

本日(8月11日・木曜日)			
会員数	83名	出席者	70名
欠席者	13名	ご来客	0名
ご来賓	0名	ゲスト	1名
		計	71名
前々回(7月28日・木曜日)			
出席率	100%		



青少年交換派遣学生

やました らい
山下 礼 さん帰国挨拶



会報雑誌・広報委員会

坂田会員

ロータリーの友誌紹介

ロータリー情報委員会

森信委員長

ロータリーの友誌紹介

同好会報告

紫友会 松岡(輝)世話人

先月の例会時に行われました紫友会取り切戦の成績報告をいたします。

前年度優勝者による取り切戦で見事優勝されましたのは、原 敬会員です。

(トータル83 ネット73.1)

なお今月の例会は鷹の巣ゴルフクラブで20日に行われます。ご参加される皆さまは熱中症への万全の対策をお取りいただきご参集いただきますよう、お願い致します。



会長杯(紫友会)

紫雀会 岡田世話人

紫雀会の7月月例会が7月21日シサール麻雀室で開催されました。

今回は前年度の取り切り戦を兼ねた月例会として12名の参加と久々の賑わいでした。

優勝は本当に久しぶりに参加いただいた松岡幹太郎さんが4回戦中3回トップとダントツで見事幹事杯を獲得しました。2位にも7ヶ月ぶりに参加の岡野さんが、3位には勝負師木本さんが僅差で入りました。私は1回戦トップで浮かれ

ていたら結局トータルマイナスで終わり、相変わらずの参加賞を持ち帰りました。

今回は大勢の参加をいただき、ワイワイと楽しい月例会でした。

次回8月の月例会は8月18日の第3木曜日、庚午クラブでの開催を予定しておりますので、今回と同様に数多くの皆様のご参加をいただきますよう宜しくお願いします。



幹事杯（紫雀会）

回 囲碁同好会 小田世話人

2011年7月2日、広島（三菱）ダイヤモンドホテルにおいて、囲碁同好会で副会長杯取切戦を開催しました。

今回は、特別会員北村さん三原さん、現役会員として尾形さん、梶川さん、田中さん、堀江さんと小田の7名での開催となりました。

今回は、尾形さんが、4戦全勝という結果で優勝され、副会長杯を見事獲得されました。尾形さんの3段という評価は、低すぎるのではないかというご意見もありましたが、西南RCとの対抗戦の結果によるもので、今回は、正当な格付けであるということで、無理やり皆さんにはご理解をいただいております。でも、結果をみると、甘いようでしたので、今回は、1つ昇段させていただくことにしました。なお、副会長杯提供者の梶川さんですが、謙虚な性格を十分に発揮され、今回は自ら出された副会長杯をもって帰ろうなどという不遜な態度は何一つ示されることなく、自然流の対戦でお気遣いをいただきました。誠にありがとうございました。



副会長杯（囲碁同好会）

祝 連続出席100%（6名）

吉田君（33年）	藤田君（26年）
中村（哲）君（21年）	川西君（21年）
田戸君（20年）	上田君（11年）

連続出席20年 田戸 孝雄 会員に記念品贈呈



● スマイルボックス S A A 安部委員

☺ 尾形君（自主申告）金一封

囲碁同好会の副会長杯の取り切り戦で4戦全勝し、副会長杯を頂戴いたしました。並み居る強豪の仲間入りが出来たことに感謝し、出宝します。

☺ 松岡（幹）君（自主申告）金一封

何年かぶりで紫雀会の取り切り戦に参加、ツキも手伝って大差で勝利する事が出来ました。有難うございました。

☺ 井原君（自主申告）金一封

田村ガバナー公式訪問。会長幹事懇談会、公式訪問例会、ガバナーを囲むフォーラムと無事に終える事が出来ました。充実したガバナー公式訪問を行なえたことに感謝して出宝させていただきます。

☺ 川西君、香川基吉君、梶本君、前橋君

公式訪問が無事に終わり一安心でしょう、という事でご出宝よろしくお祈いします。

☺ 諏訪昭登君、瀬尾君、加藤君、鈴木君

公式訪問フォーラムでは瀬尾君、加藤君、鈴木君がそれぞれ担当分野での問題点の報告と立派な質問をされました。また、諏訪P Gからは、東日本大震災のロータリーの義援金について説明をされました。ご出宝よろしくお祈いします。

「原爆市長」
復刻版の発刊によせて、
「ヒロシマの復興と平和」



濱井 順三 会員

巨大地震の到来、全てを呑み込んだ大津波、さらに原発事故による放射能被害……今年3月、東日本大震災で破壊された都市の様相は原爆で壊滅した広島と酷似している。いち早く広島市民が支援活動を起こした。多くの放射線医学の機関も専門家を派遣、広島ならではの援助の手を差し伸べている。「原爆の廃墟から立上がり、復興を成し遂げたヒロシマからの援助に元気をもらった」と被災地から帰った人の報告があったとのことである。

6月12日朝日新聞、ザ・コラムには広島は平和という理念のもとに単なる復旧ではなく理念ある復興を成し遂げた、このヒロシマの教訓に学べといった主旨の論説が全国版に大きく載った。

朝日新聞の論説委員が父浜井信三著「原爆市長」の原爆後の広島の復興の歴史を読んで、広島に取材に来られた。そして、この論説でも、この度の東日本の再生にも単なる復旧ではなく理念に基づく復興の必要性が強調されておりヒロシマの平和に相当するフクシマの復興のキーワードは「人間の安全保障」という主旨の内容であった。

一方、広島では多くの有識者の呼びかけによって『東日本被災地に「原爆市長」を送る会』の輪が拡がり、前月の7月28日に呼びかけ人代表である確井静照氏（広島県医師会会長）によって共同記者発表が行なわれた。

またそれに合わせて絶版になっていた「原爆市長」が復刻版として新たに編集し直されて発刊されることになったことも発表された。

このニュースは7月29日に地元の中国新聞等で大きく報道され、他のマスコミでもとりあげられた。

今回の「原爆市長」の復刻については、この

「被災地に送る会」が一番の発端となったが、各方面からも多くの要望があった。昨年英語版を出版したが、日本語版がないのはおかしいということになり、有志の人達の再度の協力があって実現させることができた。

今回発刊された復刻版では、中国新聞社をはじめ、多くの所から貴重な写真やデータの協力を受け文中に同時に掲載されたことで当時の状況がより分かりやすく、読みやすくなっている。

この「原爆市長」が今、再び注目されるようになったのは、戦後初の公選市長として通算4期16年務めた著者が公人として原爆投下から20年間の復興の歴史を手記として書き残したものであり、フィクションでない実録だけに、「過ちを繰り返さない警鐘と、立ち上がる勇気と、未来への希望」の多くの教訓が生々の形で書き残されているということではないか。

現在の世の中では、立場や建前やかけ引き等が先に立つ考えが多くなっている風潮の中で、本当に地獄の中から立ち上がった人間の人間としての真の叫びに貴重な教訓があることに目が向けられ再認識される時代になったということではないか。復刻版の帯にも引用されているが、次のような著者の言葉が残されている。この言葉こそが当時の心からの真の思いである。

いったんは死の町と化した広島市が、どのような経路をたどって回生したか、その間、広島市民がどのような困苦に耐えたか、またどんな気持ちで、広島市民が平和を強く叫び続けているか……

私は、今、再びこの本が注目される視点、側面は、帯の著者の言葉にある3つといってもいいのではないかと考える。

- (1) 理念ある復興を遂げている復興の方向性、目標、経緯の教訓（理念、ヴィジョンをもった復興）
- (2) その過程での困苦とそれを克服していく勇気と行動の教訓（立ち上がる勇気、と行動）
- (3) 「ヒロシマの平和」と「平和都市」の哲学、価値観の問題（ヒロシマの平和とは、平和都市の役割とは存在価値）

「理念ある復興」と「ヒロシマの平和」に関する視点では広島は「平和」の理念のもと復興を成し遂げてきた。」(*1)

[国家や地域の立場ではなく平和に生きていく人間としての立場での平和を考え、平和の世界の創造を伝える哲学と価値観のもと使命感をもった都市として復興させた] (*2)

しかも広島が特別なのは「理念ある復興が市民の総意を以て行なわれた」ことと言われている。

このような「ヒロシマの復興と平和」についての原点が「市民の困苦の歴史」と共にこの本から読みとることができる。

さて、当時のことを知る人は当クラブでも10人を切るほどに少なくなっており、知らない人の方が多くなっている。

因みに私は、原爆当時、広島高等師範学校付属国民学校3年生。比婆郡の西城に集団疎開、20日後ぐらいに広島に帰って来て、広島駅頭に立った時、一面見渡す限りの瓦礫と変わり果てた市街地の目の前に己斐の山が迫って見えた記憶が今でも鮮明に残っている。直線距離にすれば本当に近いということであり、それほど遮るものもない死の街の光景であった。

被爆後の光景をもの心ついた人間として自分の目で実際に見て実感した年代としては、私の年齢が概ね最終便ではないかと思う。

今日の日本、平和ボケと言われるほど平和に対してあまりにも無知、無頓着になっており、平和は大きな犠牲と代償の上にあることの意識も風化していると言える。

以前に刀禰会員の、この8月の卓話の中で、学徒動員の丁度当番になった別のクラスの学生が原爆直下で何千度の光線で被爆。全身黒い炭のように焼け焦げ、意気絶え絶えの子供をやっと探し当てた父親に「お父さんありがとう」と言って死んだ話があったが、私は、他のいろんな話と重なり、こんな悲惨な話は何千も何万もあったのがつい60数年前のことではないかと思う。長い歴史の中ではほんの一寸のツレにしか過ぎないのに、今のような平和な生活はなかった上に、短い命さえ容赦なく奪いとられる時代。

多くの尊い犠牲と困苦の上に今の平和があることを考え、平和の有難さということを真剣に考えなければ、再び過ちを繰り返すに違いない風化の怖さを感じる。

当時復興に立ち上がった市の職員は父だけでなく多くが当時20歳から30歳代の若い人達だった。彼等が命を賭けて連日連夜、市の復興のために献身的な活動を行なった。それが今の広島につながっていることを忘れてはならない。

平和月間の今日一日ぐらい我々自身も平和について真剣に考える時間にしたいと考えた。

本日はこの「原爆市長」復刻版の何ページかを写真を中心に紹介して大きな犠牲の歴史をかみしめながら「ヒロシマの復興と平和」という切り口で平和について考える平和月間の卓話とさせて頂きたい。

早速、パワーポイントで見ていくこととしたい。

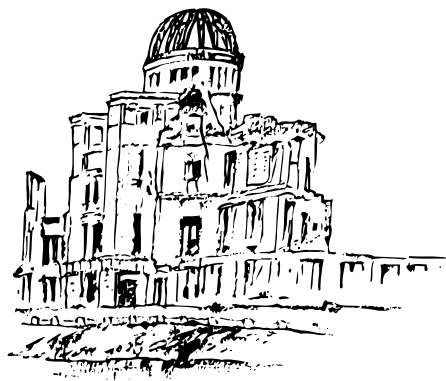
ヒロシマの平和とは、平和都市とはについても具体的には何かを考えていきたいと思っていましたが時間の関係で次回機会にさせて頂くことに致します。

ご静聴ありがとうございました。

(注)

*1 朝日新聞、その他

*2 シンポ「ヒロシマを世界へ・原爆・平和報道を考える」中国新聞主催、その他



● 卓話予告

日時	テーマ
8/25(木)	会員組織部門クラブフォーラム (卓話時間30分延長予定です)